

「南さつま市大田地区中津野お田植え踊り」伝承活動の取組

1 学校名

南さつま市立大田小学校，南さつま市立金峰中学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生（計9人），中学生1年生から3年生（計10人）

3 場所・日時

（1）練習の場所・日時

集落内（4月・週3回） 夜間（19時30分～20時30分）

（2）発表の場所・日時

4月29日（日） 中津野南方神社，集落内（11か所）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

（1）名称

中津野お田植え踊り（なかつのおたうえおどり）

（2）由来

稲作豊穰を祈願し，毎年，中津野の南方神社で奉納される踊りである。

10年間ほど途絶えていたが，平成16年の集落の総会で，「ふるさとのよさを後世に伝えるために復活させたい。」，「踊り子の確保や練習会の企画はたいへんだろうが，時代にあった運営方法を工夫してなんとか伝承してほしい。」という声が，地域有志や高齢者の方々から上がった。このことを受けて，保存会の役員が，小・中学校や関係者と連携して保存・伝承する体制を整え，現在は復活して9年目を迎えている。

最近では，踊りが奉納される日に合わせて帰省する人々も多く見受けられるようになり，中津野集落に春の到来を告げ，地域をあげて五穀豊穰等を祈願する一大イベントになってきている。

（3）構成等

踊りは，歌い手の歌に合わせて，鎌やナタ，棒などを激しく打ち合いながら入り乱れて踊る。

踊りの種類は，金山（かなやま）踊り（小学生9人を中心に構成），2人組踊り（中・高生16人を中心に構成），3人組踊りと3人組棒踊り（大人12人で構成）の4種類である。

内容は，鎌踊り，薙刀（なぎなた）踊り，金山踊りである。

衣装は，かすりの着物に，色鮮やかな襷（たすき）を背中で十字に結び，頭は白鉢巻の姿である。

5 保存会や地域との連携の具体

（1）毎年3月に保存会の役員会を開催し，踊り子の選定や奉納日・練習日等を協議している。

（2）保存会の決定事項を中津野集落の役員会や総会で報告し，集落をあげての協力体制で継承に努めている。

（3）奉納の準備や奉納場所の調整，奉納当日の運営等は集落の住民をあて，集落全体の祭りとして取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 地域の小・中学校の児童生徒数が減少しており、踊り子の確保に苦勞している。そのため、保存会の役員は、児童生徒や保護者に「お田植え踊り」について由来等を説明し、協力要請を行っている。
- (2) 小・中学校との連携を密にし、学校関係者から児童生徒に「声かけ」や「励まし」をしてもらうようお願いし、踊り手の確保に努めている。
- (3) 保存会の役員は、練習期間にはできるだけ都合をつけて練習に参加するようにしている。
- (4) 先輩が後輩に踊りを指導することをとおして、子どもたちがあいさつなどの礼儀作法等を学ぶ機会になっている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



小学生中心の金山踊り



中・高校生による2人組踊り



3人組踊り（大人12人で構成）



多数の参観者

8 参加者児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 児童・生徒から

ア 父が昔踊った踊りを、自分も踊ることができうれしかった。母も喜んでくれた。(小学生)

イ 地域の方々から「頑張ったね」という励ましや褒めてもらったことがうれしかった。(中学生)

(2) 保護者から

子どもが中津野の宝である踊りを体験することができてよかった。ふるさとのよさを感じた。

(3) 教職員から

ア ふるさと意識の高揚をめざす実践で、地域の教育力の高まりを感じている。地域の方々から子どもたちへの声かけがうれしい。地域にとって大事なふるさとの祭りであると思う。(小学校の教職員)

イ 生徒がいきいきと披露する様子に胸が熱くなった。ありがたいことである。(中学校の教職員)

(4) 保存会関係者から

ア 先人が苦労して伝承してきた「ふるさとに春を告げるお田植え踊り」を長く守り伝えていこうという、みんなの心が一つになる喜びを感じた。

イ 指導者の高齢化に対応するため、歌い手の後継者育成にも力を入れたい。

ウ 市長さんをはじめ、小・中学校の校長・教頭先生、市教育委員会から激励に来ていただいた。また、多くの帰省者もあった。今後は、広報の充実と録画にも努めたい。

(5) 行政関係者から

ア 保存会は、平成23年度の市郷土芸能保存会総会で郷土芸能の保存と伝承に係る事例発表をしていただいた。

イ 小・中学生や高校生はもとより、若者や壮年の元気いっぱいの姿に対して、参観者が大きな拍手をしておられた。地域の方々がこの踊りをふるさとの誇りに感じている様子が伺える。